

繁殖を始めてからどの位になるでしょう・・・？ 私の第一回目の繁殖から数えれば、既に4代目の子犬達が生れているのでこれでも古株の方になるらしいのです。と言っても、ラブラドル自体が日本に於はまだ歴史の浅い犬種なので現在の時点でも、繁殖に関しては、まだまだ手探り状態というのが正直な所でしょう。

今迄の繁殖の殆どが、アウトクロスブリード中心に行われて来ましたし、ショー系とトライアル系の違や、区別があつた事すらも知らない方が未だ多くいらっしゃいます。どちらが良いとか悪いとかいう事ではなく、夫々犬の用途が違う為に、本国でも犬作は区別されて来ました。又、特に容姿に限らず中味の特長も可也の違いが有り、目的によっては無計画に混ざれた繁殖は避けた方が良いでしょう。

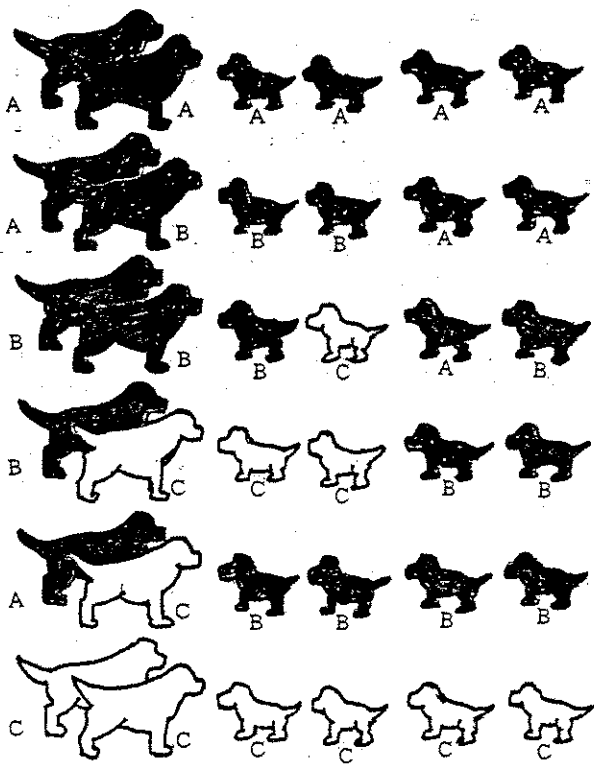
生れた子犬の中で、丸顔もいれば、細面、体形もがっちりタイプもあればスリムタイプ、性格もばらつきがある。此の様な特長がアウトクロスブリードにはよく現れます。これは両親が異系のもを交配した場合です。反対に、一胎子の全部に均一性が有り、親の特長をそっくり受継いでいるものや、親戚一同そっくりさんばかりなどというのは、インブリード（近親繁殖）やラインブリード（系統繁殖）の特長です。

良い犬を作るには、良い犬をコピーすればいいのですが、犬は紙の様には行きません。親がこんなに良いのだから・・・と、期待しても、何処からか養子でももらつて来たのではないだろうか・・・と思える様な子犬だつて生れて来るかもしれません。将来繁殖家を志す方は子犬を選ぶ時に特に大切な事ですが、子犬は勿論の事親犬、出来れば祖父母犬までじっくり観察し、良い共通の素質を夫々が受継いでいるかを見ます。そうして選んだ犬に、又共通した良さを持つ交配相手をかけて行けばきっと良い結果が出る筈です。より短期間に、確実性を求めるなら、インブリードやラインブリードをすべきです。インブリードは、親子や兄妹など極端に血液が近いもの同士を繁殖する事で、ラインブリードは、もう少し離れた関係の親戚大同士を繁殖する方法です。しかし全て、メンデルの優劣の法則に則ってDNAの組換えが行われるのですから、特にインブリードでは共通の劣性遺伝子同士が組み合わされる事は必ず免れない事です。従つて、インブリードに限りませんが、欠陥が出た場合には淘汰しなければなりません。

く事が最善だと思えます。

日本のラブラドルも決して、中味の水準に関しては、諸外国に引けはとらないと思えますが、やはり原産国だけに、英国などのラブラドルには、長年の歳月によって培われた、風格、気品、そして正にこれが極限か！と思わせる様な完璧に近いラブがいます。血統を辿ってみると、殆どが4〜5代祖まで、1〜2個所は、ラインブリードが、必ず入っている犬が殆どである事に気づきます。

古い犬舎ですと、犬舎名をいっただけで、犬のタイプがはっきり頭に浮かぶ程、個定化されている所も少なくはあり



イエローやブラックの毛色についても、優劣の法則に則り上の表の様に現れます。ブラックが優性遺伝子、イエロー(C)が劣性遺伝子、又ブラックの毛色をしていても、純粋優性(A)と不純粋優性(B)の遺伝子があります。(チエコレイトいろについては、資料不足。)私の記憶によると、確か英国では、今ホワイトラブラドルを作つつあるそうです。

私達の周りのラブたちも、恐らく容姿の点でもスタンダードの枠内に入る犬達ばかりだと思えます。容姿でも性格でもどちらも同じですが、より良いもの、又、良いものの中でも自分の好きなタイプの犬に焦点をピタリと当て、目標を明確にし、繁殖を進めて行

ません。マズル（鼻）の大きさや其長短、耳の大きさや耳付きの位置、顔、又前半身と後半身のバランス、尾付けの位置、そして全体的な犬の雰囲気までも一定していてもとまりがありません。此処まで到達するまでの並々ならぬ努力と研究心にはただただ頭が下ります。環境の点でも、諸外国の犬舎の中には、ひよっとしてここはゴルフ場では・・・？と思う様な莫大な規模を持つ所も少なくありません。時間をかけて、何代もの犬を研究繁殖して行くにはそれなりの繁殖場や管理体制が必要ですから、この辺にもラブラドルが発展して来た理由があるのでしょうか。

最近のラブラドルについて特に感じますのは、イエローラブラドルに多い様ですが、前半身が立派な割に後半身が（後足）弱いものが目立つ様です。又、最近腰に問題が出ている例も耳に致します。繁殖者には、まだ考えなければならぬ問題が、沢山あるかもしれません。ただ、何時でも広い視野で見つめる確かな判断をしていかなければならないと思います。

管理、其他の事についてはアンケートの方で触れさせて頂きましたが、私は、繁殖に関して特に大義名分など掲げている訳でもありませんが、やはりラブラドルには第一に性格の良さを重んじたいと私は思います。容姿も性能も抜群！これが理想です。でも、例えばシウウなどでベスト・インショーなど取り続ける様な素晴らしいプロポーションの持主でも、性格が極端に悪ければ何の魅力もないからです。この犬は、側に居て話をするだけで、私達人間を時には惹め、勇気付け活力を蘇らせてくれる・・・そんな不思議な力を持った犬なのです。目と目で会話の出来る友達なのです。少々不細工でも、短足でも、すぐ騙されてしまいそうな単純で馬鹿が付く様な御人好きさんでも、何時でも私達の心を暖めてくれるそんな存在であってほしいと思います。これからもクラブの皆様と協力し合っ楽しくブリーディングをして行きたいと思えます。